

令和 5 年度 政務活動費支出整理簿

会 派 名 新緑・無所属の会

氏 名 吉田 淳一

項 目	研修費		
費 目	旅費		
整理番号	月 日	支出額 (円)	支 出 内 容
1	7 / 27	54,020	八戸セミナー 旅費・宿泊費（愛知県名古屋市）（日程、場所等は調査視察等届出書等に記載）
1-1	/	0	JR乗車券・特急券 八戸⇄名古屋 44,220円 名古屋市宿泊代9,800円
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
小 計		54,020	備 考
合 計		54,020	

※案分による支出の場合は、案分率等を支出内容欄に記入してください。

第3号様式（第6条、第8条関係）

令和5年7月10日

会派名 新緑・無所属の会
代表者名 伊藤 圓子 様

氏 名 吉 田 淳 一 (印)

調査視察等届出書

八戸市議会政務活動費の取扱いに関する要領第6条第1項の規定により、次のとおり届出します。

- 1 旅行者 吉 田 淳 一 議員
- 2 期 間 令和5年7月27日(木)～令和5年7月28日(金)
- 3 場 所 愛知県名古屋市
- 4 目的及び内容 八戸セミナー2023
- 5 支出可能額(上限額) 77,560円

【内訳は、旅費額計算書（第4号様式）に記載のとおり】

第4号様式（第6条、第8条関係）

旅 費 額 計 算 書

旅 行 日 程			旅 費 計 算 の 基 礎							
行	7/27	八戸駅発 9:05	区 分	基 数	単 価	金 額	備 考			
き	7/27	名古屋駅着 14:14	早見表							
帰	7/28	名古屋駅発 8:43								
り	7/28	八戸駅着 14:13								
経路・滞在地 【7/27（木）】 9:05 八戸駅発（JRはやぶさ14） 12:08 東京駅着 12:33 東京駅発 （JRひかり643号） 14:14 名古屋駅着 15:00～18:00 八戸セミナー2023 会場：名古屋マリオット アソシアホテル 17階ルピナス （愛知県名古屋市中村区名駅 1-1-4） ≪名古屋市内泊≫ 【7/28（金）】 8:43 名古屋駅発 （JRひかり640号） 10:42 東京駅着 11:20 東京駅発（JRはやぶさ21） 14:13 八戸駅着			鉄道運賃		997.9k	12,540	22,560	八戸⇄名古屋（往復割引）		
			急 行 料 金	特	2	6,270	12,540	八戸⇄東京 631.9k		
					2	4,390	8,780	東京⇄名古屋 366.0k		
			1		200	200	繁忙期割増 （7/28 名古屋→東京）			
				急						
			特別車両 料 金		2	5,600	11,200	八戸⇄東京 631.9k		
					2	4,190	8,380	東京⇄名古屋 366.0k		
			航空運賃							
			バス運賃							
			宿泊料	1	13,900	13,900	7/27 名古屋市内泊			
			小 計						77,560	
			合 計（小計×人数）						77,560	1名

令和5年8月30日

会派名 新緑・無所属の会
代表者名 伊藤 圓子 様

氏 名 吉 田 淳 一



調査視察等報告書

令和5年7月10日付けで届出した調査視察等を実施したので、八戸市議会政務活動費の取扱いに関する要領第6条第1項の規定により次のとおり報告します。

- | | |
|-------|--|
| 1 旅行者 | 吉 田 淳 一 議員 |
| 2 期 間 | 令和5年7月27日（木）～令和5年7月28日（金） |
| 3 場 所 | 愛知県名古屋市 |
| 4 行 程 | 7月27日 八戸～JR～東京～JR～名古屋
7月28日 名古屋～JR～東京～JR～八戸 |
| 5 支出額 | 54,020円 |
| 6 概 要 | 別紙のとおり |

領 収 書 等 貼 付 用 紙

項 目	研修費	費 目	旅費	整理番号	1-1
領収書等貼付欄					

領 収 証

No. 122972

2023年 8 月 2 日

吉田 淳一 様

金 額			¥	5	4	0	2	0
-----	--	--	---	---	---	---	---	---

貼 用
収 入 印 紙

但し JAL 宿泊代は

10%対象(税込) 54020 0%対象
内 消費税 4910 円 上記の金額正に領収致しました。

現 金	✓
小切手	
振 込	
クレジット	

北日本トラベル
登録番号 T1420001005756
〒031-0041 青森県八戸市二十三日町4-1 NDビル1F
TEL (0178) 22-5151(代)

扱 者 印



※ 領収書等の原本は、用紙に重ならないように貼り付けること。

ご旅行代金お見積り

吉田 淳一 様

令和5年7月27日
北日本トラベル株式会社
店長 大久保 正
青森県八戸市廿三丁目4-1
電話 0178-22-5151
担当 〇〇〇〇

ご依頼賜りました件につきまして、下記の通り請求させていただきます。
ご不明な点がございましたら担当者までお問い合わせ頂きます様お願い申し上げます。

参加人員 大人 1名 計 1名
ご旅行期間 令和5年7月27日～7月28日
ご旅行方面 名古屋 方面
行程 ご依頼を頂いた別紙の通りとなります。

お一人様当り 54,020 円 総旅行代金 54,020 円

お見積内訳

項目	人員	ご利用 宿泊代金	台数 人数	ご利用 運賃・料金	小計	区間・備考
JR代	1	44,220			44,220	7/27～7/28 八戸～名古屋（往復）
宿泊代	1	9,800			9,800	ヴィアイン名古屋駅前椿町 朝付き
お見積り金額小計		54,020			54,020	
取消料						
お預かり金				△		
お見積り金額合計		54,020			54,020	消費税込

特記事項

調査視察報告書

- 1 視察日 令和5年7月27日(木) 15時～18時
- 2 内 容 八戸セミナー2023
～チャンスを生る、掴む、広げる 北の港湾産業都市はちのへ～
- 3 会 場 名古屋マリオットアソシアホテル 17階ルピナス
(名古屋市中村区名駅1-1-4)
- 4 主 催 八戸市、八戸港国際物流拠点化推進協議会、八戸市企業誘致促進協議会
- 5 後 援 青森県、青森県企業誘致推進協議会、(独)中小企業基盤整備機構東北本部、
(株)日本政策投資銀行、(独)日本貿易振興機構(ジェトロ)、八戸商工会議所、
三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村、おいらせ町
- 6 参加議員 新緑・無所属の会 吉田 淳一

7 セミナー内容

① 熊谷市長挨拶及び八戸市の紹介

熊谷市長から、八戸市の立地環境、八戸市への進出企業、更なる飛躍へのチャレンジ、八戸のライフスタイル、支援制度の紹介について、それぞれ紹介がなされた。

② 立地企業による講演

多摩川精機株式会社 代表取締役社長 松尾 忠則氏

松尾代表取締役社長から、「多摩川精機の事業展開 八戸事業所の現状と今後」と題して、主に会社概要(沿革、売上高推移、国内・海外ネットワーク等)、八戸地区の立地状況、八戸事業所・八戸第一工場等、モータートロニクス、5つのマーケット、工場設備・輸送機器・遊技機器・科学機器関連の商品、八戸事業所のこれからについてそれぞれ紹介がなされた。

③ 八戸港の紹介

青森県県土整備部港湾空港課 課長 常田 明氏

常田課長から、「すごい！八戸港」と題して、コンテナサービス、数字で見る八戸港、上空から見る八戸港(映像)、カーボンニュートラルポートへの取組、充実した補助制度、八戸港の展望について、それぞれ紹介がなされた。

④ 情報交換会

17階コスモスにて実施され、18時をもってセミナーが終了となったもの。

8 研修総括

今回の八戸セミナー2023は7月26日に東京、27日に名古屋を会場として開催されたものであり、名古屋会場は立地企業、製造関連業、船主、物流関連業、金融機関、地元メディアなど約90名の参加者がおり、今年は新型コロナウイルス感染防止対策による会場収容人数の制限が解除され、気軽に名刺交換や情報交換の会話が出来る久しぶりのセミナーとなった。セミナー会場はほぼ満席となるなど参加者の関心の高さがうかがえた。

熊谷市長の八戸の紹介は、安定した気候、陸・海・空の交通アクセスの充実によって産業集積が進み、八戸港のコンテナ取扱実績は7年連続5万TEUを超え、製造業出荷額では北東北3県では第2位である点をアピールし、そして更なる飛躍へのチャレンジとして、北インター第2工業団地の造成状況、モーダルコンビネーション物流拠点性の可能性を提案しながら、産業都市八戸のさらなる発展の可能性を訴求されていた。当市は、北東北、東北のなかで産業都市として大きなポテンシャルを秘めていると思われる。

1991年に八戸多摩川を設立し、誘致企業となった多摩川精機株式会社の講演では、地域の工業化を図り、地域を活性化する理念のもと、八戸に第一工場を開設。産業用モータを製造し、順調に売り上げを重ねながら、第二工場をさらに開設し、新たにMEMS ジャイロ製造を手掛けるなど事業拡大を遂げており、地元雇用も500名を超える規模とのことであった。今後も創業者の理念である「技術の最先端化に継続して取り組み、市場から必要とされるようになる」ことを常に意識し、八戸でも最先端技術の研究・製品製造に取り組んでいきたいとのことであり、社長の強い思いが伝わる講演であった。

青森県県土整備部港湾空港課の常田課長による八戸港の紹介では、国際コンテナ航路の開設とサービス状況に触れながら、八戸港の輸出入のバランスの良さ、コンテナ取扱量の順調な推移のなかでも中国・韓国航路が伸びていること、近年ではアメリカ向けも伸びていることが特徴である。また、八戸港のカーボンニュートラルに向けた取組が進められており、令和5年12月頃に計画が策定される予定とのことであった。さらなる事業拡大に向けて、新たにコンテナ利用増に向けて潜在貨物の掘り起こしに力を入れており、充実した補助制度による支援制度と組み合わせることで、八戸港のますますの物流拠点化が期待できるものであった。

今回のセミナーによって、八戸に関心を持つ企業が増え、中部圏からの新たな企業又は事業所の開設のほか、新たな定期航路の開設が増えていくことを期待するものである。八戸の持つポテンシャルの高さを活かしながら、自治体と民間企業が地域経済の発展に取り組むことで、物流2024問題などの課題もチャンスに変え、さらなる産業都市の発展に寄与するものであると考えるものである。